

「青森県史通史編1 原始 古代 中世」では、考古学の記述について、写真・地図・実測図などを使って、読者にわかりやすいよう工夫した。さらに、当時の景観や遺構・遺物のありかたについて復元したイラストも、使用している。イラストは、単に執筆者や編集者が想像したものではなく、様々な分野の研究成果などから、丹念に復元したものである。

例えば、特別史跡三内丸山遺跡近野地区では大きな

谷に流れ込む沢の下流に縄文時代中期の水場遺構が発掘された。その中には木組遺構がつくられ、周りに植木加工などに使用される石皿や磨石が出土したことから、堅果類のアク抜きや植物加工など様々な用途に使われていたと考えられている。本誌では、その遺構で秋にトチの実のアク抜きを行っていた様子を復元したイラストを掲載している。

木組遺構のイラストは、発掘調査の実測図や発掘調査時の写真などに基づいて復元した。木組遺構の近くから、縄文人がトチの実の皮を捨てた遺構も発見されたため、トチの実のアク抜き作業を行っていた可能性が高い。そこで、近い時期の他遺跡の事例や現代のトチの実のアク抜きに関する民俗例を参考にして、遺構の中に皮を剥いたトチの実

が入ったバスケットを入れた。水場遺構がある沢は、発掘時の遺構周辺の測量図を参考にした。沢に堆積した土壌に含まれる珪藻（コケの仲間）化石を分析した結果、縄文時代にはきれいな水が流れていたことや、時折水が流れなかったこと、

水量も多くなかったことが明らかになっている。同じく土壌に含まれる花粉化石の分析結果から、水場遺構が造られた頃から、周りにはトチノキが多く生えていたことも明らかになっている。トチノキは、沢筋にまとまって生えるので、現代の青森県内、八甲田周辺などにあるトチノキの林を参考にした。

このように発掘調査成果からイラストとして復元することができる遺構などは限られている。イラストは、詳細な資料をそろえ、イラストレーターに復元する内容を伝えるところからはじまり、その後、作成した下書きをもとに、執筆者・イラストレーター・編集者の間で何度も修正を重ねて完成させた。

遺跡から発掘された遺構や遺物の写真、実測図などから、それらが使われていた当時の姿を想像することは難しい。「通史編1」で掲載した復元イラストにより、当時の生活などを身近に感じてもらえれば幸いである。

縄文時代の

景観を復元する

伊藤 由美子

（県民生活文化課
県史編さんグループ主幹）



水辺での堅果類処理と
木組遺構の復元イラスト（画・安芸早穂子）